

令和5年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。
平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和5年4月18日(火)

4 調査の内容

(国語、算数、理科) 教科に関する調査	・ 小学校調査は、国語、算数とする。 ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。	
	【小学校 国語・算数 各 4 5 分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	77.2	72.8	71.2
情報の扱い方に関する事項	2	66.7	64.4	63.4
話すこと・聞くこと	3	79.8	73.9	72.6
書くこと	1	25.4	26.1	26.7
読むこと	3	74.0	72.5	71.2

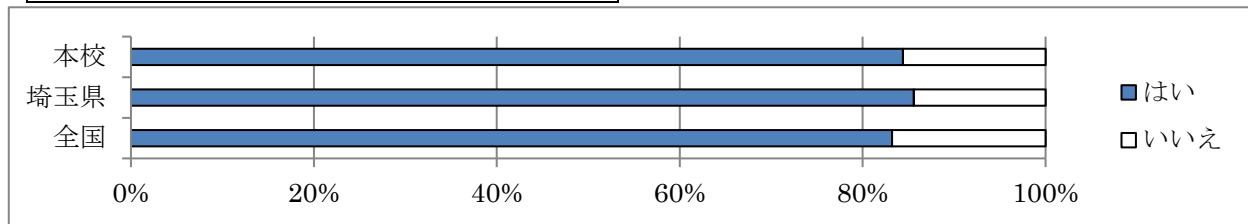
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	73.0	67.1	67.3
図形	4	50.4	47.8	48.2
変化と関係	4	75.0	71.0	70.9
データの活用	3	71.9	66.3	65.5

<児童への質問紙調査>（主なものをグラフで表示）

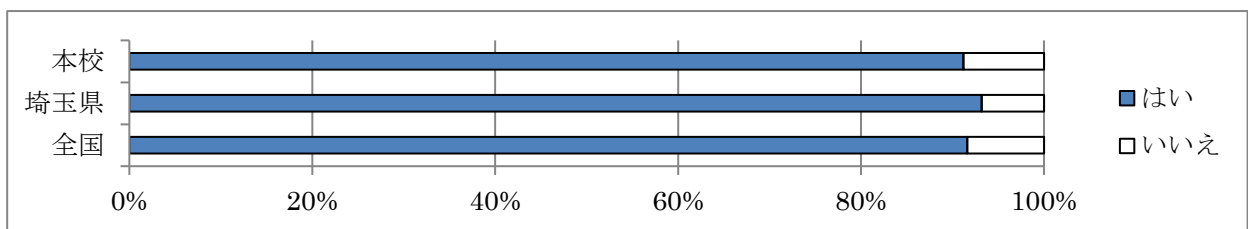
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

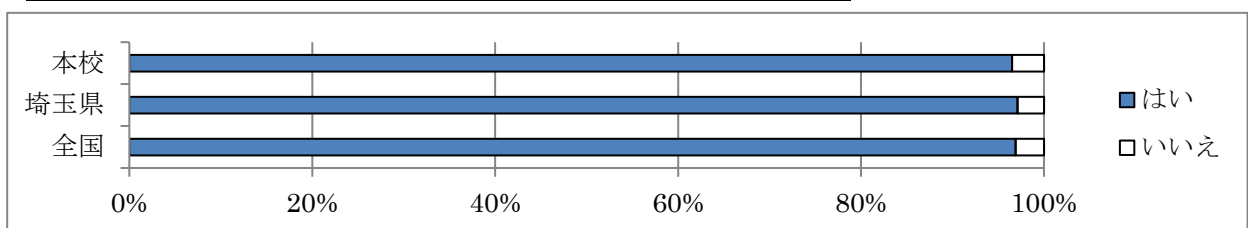
自分には良いところがあると思いますか。



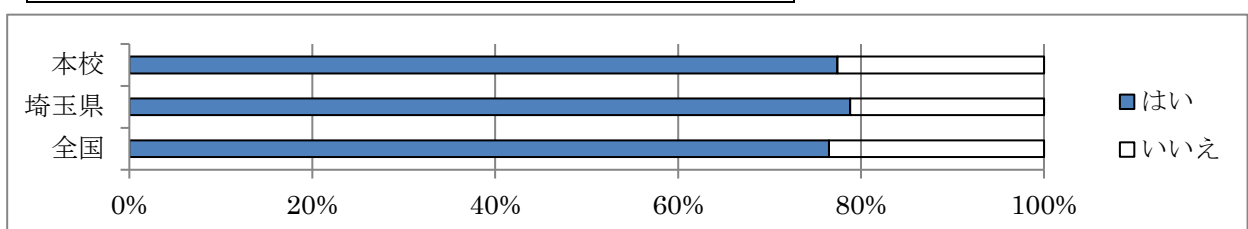
人が困っているときは、進んで助けていますか。



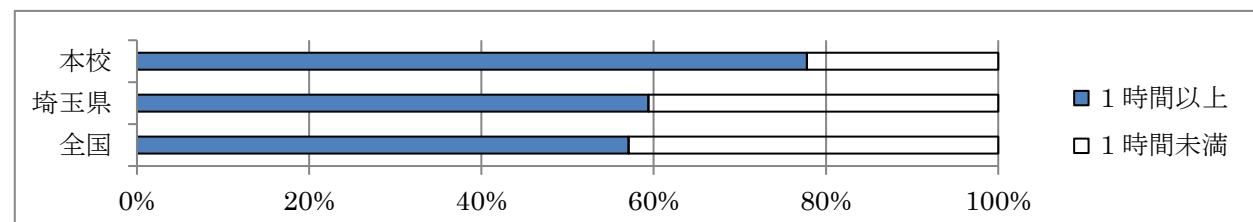
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



自分と違う意見について考えることは楽しいと思いますか。



学校の授業時間以外に 1 日当たり勉強しますか。※学習塾等も含む。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

全国・県と比較して「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」「話すこと・聞くこと」「読むこと」について各正答率を上回っています。唯一「書くこと」についての正答率が下回りましたが、無回答率は全国・県と比較して低くなっており、国語科の指導法研究に3年間取り組んできた成果として意欲が向上してきていることが分かります。

【問題1－(2)】

前の問題で選んだ情報を基に、説明する文章を条件に合わせて書く問題です。

正答例

グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしゅうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。

条件
○ 学校の手作り問題点については、「川村さんの文章」のグラフ（農家の田んぼの雑草の量）と「カード⑤」のそれぞれから分かることを書くこと。
○ 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題です。無回答は全国・県に比べて少なかったのですが、正答率が国語の中で唯一全国・県を下回っていました。

【問題1－(3)】

問題文の中でひらがな表記されている部分を、漢字に直す問題です。

雑草取りを続けたのですが、ア いがい に雑草が生えてきて、とてもこまりました。

ウ きかん は7月1日から15日までです。

正答 ア 意外 ウ 期間

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題です。短答型の問題の正答率が高い傾向にある中、特に高い正答率であったのが本問題です。知識として、漢字が良く身についていることが分かります。

<算 数>

全国・県の平均正答率と比較して、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」全ての領域において正答率を上回っています。一方で、「知識・技能」「思考・判断・表現」の3観点からみると、どちらも全国・県の平均正答率を上回りますが、「思考・判断・表現」の数値が若干低く、今後の課題とみることができます。

【問題2－(4)】

問題 高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

正答

3 面積は等しい

<理由>

三角形の面積は、底辺×高さ÷2で求めることができる。底辺はどちらも3.2cmで等しく、高さもテープのはばがどこも同じ長さなので等しいから、面積は等しいです。

面積が等しいことはわかっているが、説明する際に情報が不十分になる傾向にあります。必要な情報を整理して伝えることが重要です。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような①と②の三角形をつくります。



上の①と②の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ①の面積のほうが大きい。
- 2 ②の面積のほうが大きい。
- 3 ①と②の面積は等しい。
- 4 ①と②の面積は、このままでは比べることができない。

【問題4－(1)】

問題 百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題です。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

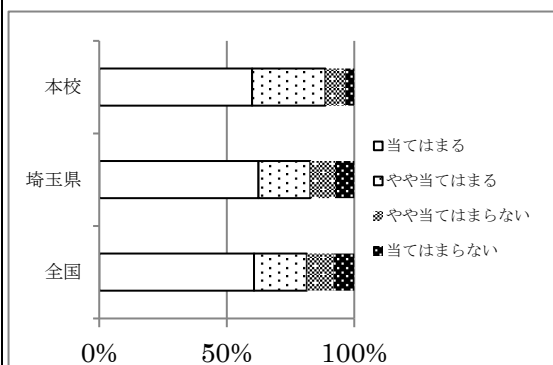
正答 ウ・エ

百分率で表された割合である30%について、100人や10人を基準量としたとき、それらに対する比較量を捉えることが必要です。ここでいう割合の理解とは、基準量が変わると比較量が変わることも含まれます。問題文のように、基準量に対する比較量が正しく30%であるかどうかを確かめるためには、割合や百分率の求め方を理解している必要があります。

<質問紙調査から>

【質問 7】

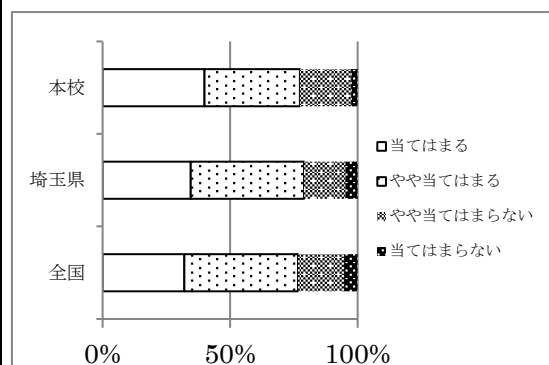
将来の夢や目標を持っていますか。



「当てはまる・やや当てはまる」と回答した児童の割合が全国・県の平均と比較し、高くなっています。学習でめあてをもつことや、行事を通じて目指す自分の姿など、様々な場面でめあてをもつことの大切さを指導していることで、目標をもつことの重要性が身に付いてきていることが考えられます。また桶川市が取り組んでいる「キャリアパスポート」の取組を通じて、児童が自らを振り返り、次年度へ向けての展望をもつことができるようにしていることも要因の一つとなっていることがうかがえます。

【質問 13】

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。



「当てはまる・やや当てはまる」と回答した児童の割合は全国・県の平均と比較し、若干低くなっていますが、「当てはまる」のみで見ると、その割合は大きく上回っていることが分かります。本校では3年間の国語科の指導法研究を通じて、自分の考えを表現する力の育成や、お互いの意見について話し合う活動の充実に注力してきました。こうした取り組みから、相手の考えを尊重し、違う意見について考えることの楽しさやよさを、児童が身に付けてきていることが大きな要因となっていることが考えられます。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和5年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和5年5月10日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	17	65.8	68.0	14	66.5	69.3	14	72.7	71.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	6	63.6	64.2	7	52.1	61.3	3	44.9	47.7
話すこと・聞くこと・書くこと	5	46.4	51.3	4	53.0	60.0	5	52.9	51.3
読むこと	3	46.8	57.5	6	46.1	51.0	9	51.6	53.8
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	73.7	71.7	14	60.2	63.4	13	67.4	60.2
図形	6	52.1	56.5	8	54.0	61.3	8	63.8	60.3
4年測定 5,6年変化と関係	6	55.6	56.5	6	55.0	64.2	7	56.5	53.9
データの活用	6	61.7	61.7	4	55.2	63.4	5	45	44.3
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑	↑↑↑		↑↑	↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は８０％以上（％）

内容	項目		第4学年	第5学年	第6学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る				
	① 登校時刻	92.0	93.1	93.9	
		94.2	94.6	93.1	
	② 授業の開始時刻	90.6	91.9	94.4	
		90.9	92.8	96.5	
	2 身の回りの整理整頓をする				
	③ 靴そろえ	82.1	81.8	85.8	
		79.4	80.9	80.0	
④ 整理整頓	79.3	76.4	77.1		
	79.3	76.4	80.0		
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする				
	⑤ あいさつ	80.3	77.4	77.7	
		71.9	72.7	80.0	
	⑥ 返事	90.0	88.1	87.8	
		88.4	93.7	92.2	
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける				
	⑦ 正しい言葉づかい	85.7	86.6	88.8	
		78.5	82.7	93.9	
⑧ やさしい言葉づかい	86.4	84.7	85.1		
	88.4	83.6	86.9		
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る				
	⑨ 学習準備	84.6	85.3	86.6	
		83.4	81.8	91.3	
	⑩ 話を聞き発表する	80.9	77.3	74.4	
		79.4	65.5	75.7	
	6 生活のきまりを守る				
	⑪ 集団の場での態度	86.7	84.7	85.7	
		88.4	81.8	95.6	
⑫ 掃除・美化活動	91.8	89.2	87.9		
	90.9	90.9	93.9		

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 反復学習の時間確保と取組

- (1) 授業時間内に定着問題とその反復の時間を確保しています。
- (2) 単元ごとのワークシートを活用し、習熟度の確認をします。
- (3) ドリル学習や、再テスト等で確実な定着を目指しています。

☆2 全教科で言語活動の充実をはかっています。

単元の流れを見通して、豊かに表現する活動を取り入れることを目標にします。

- (1) 意見や事実を考える。
- (2) 考えたことを書く。
- (3) 書いたことを話し合ったり、伝え合ったりする。(ペア・グループ・学級内で)

☆3 その学年で身につけなければならない基礎的・基本的な事項についてテスト形式で確認し、繰り返し取り組むことで学力の確かな定着を図ります。

☆4 授業力を向上させるため、互いの授業を見合う場をより多く設定し、授業について話し合う場を通して教師同士の学びを深めます。

■5 クロームブックなどの ICT 機器を活用することで、子供達の興味関心を引き出したり、学習の理解を深めたりすることができるよう教材研究を進め、授業を展開します。また、研修で活用の仕方を周知し、活用できるようにしていきます。

■6 身の回りの整理整頓やチャイム着席、学習準備などの規律が身につくよう校内の約束事を周知し、当たり前前の方が当たり前前できるようにしていきます。

授業以外の取組

☆1 個々の評価を蓄積し、個の実態を把握した学習指導を行っています。

☆2 授業規律の確立のため、学年ごとの学習用具のきまりを各学級で指導しています。

☆3 図書室の整備・活用を進め、読書活動のさらなる推進と家庭への奨励を行っています。11月には、図書館教育部による読書月間の取組をしています。

☆4 学校行事等、児童が目標やめあてをもって、最後まで取り組めるよう、また友達と協力して絆が深められるよう、指導や支援を行っています。

☆5 家庭と協力して、家庭学習の習慣化を図り、学力の定着を目指します。

■6 県作成のコバトン問題集や復習シート、学力向上ワークシート等を授業や宿題等で活用することで学力の向上を図ります。

■7 校内の研修会を実施し、職員の指導力の向上を図ります。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン



保護者・地域の皆様へ

日頃から本校の教育活動へのご理解とご協力、誠にありがとうございます。全国学力・学習状況調査の結果から、目標をもって日々の生活を送っていることやそれに伴う自己有用感の向上が感じられます。また、埼玉県学力・学習状況調査の結果からは多くの場面において規律を大切にしている様子がうかがえます。今後も児童の学力の向上、心身の健全な育成を目指していきまるとともに、友だちを大切にし、安心して生活ができる学校づくりをしていきます。保護者・地域の皆様におかれましては今後も温かく見守っていただきますとともに、子どもたちの益々の成長のため、ご理解とご協力を頂けますようお願いいたします。